

絶望の先に本当の希望があった。

世界でいちばん美しい村

ネパール大地震の震源地に向かった写真家が会ったのは
愛と祈りと絆で結ばれた
世界でいちばん美しい人々が住む村だった

2017
全州国際映画祭正式招待作品

写真家石川梵 初監督作品

監督・撮影：石川梵 ナレーション：倍賞千恵子
エグゼクティブプロデューサー：広井王子 プロデューサー：石川梵
撮影助手：宮本麗 編集：渡輪広二 編集協力：道正由紀 音楽：Binod Katuwal *はなおと*
オフィシャルサポーター：山田洋次 関野吉晴 野口健 栗城史多 高橋ツトム 安田菜津紀 佐藤利明 宮崎学 竹沢うるま
田口ランデ 岡本有子 西條剛史 長倉洋海 林典子 Jun Amanto 佐藤慧
協力：松竹 Canon Cinema Sound Works ムーンファクトリー 後援：ネパール大使館 配給：太秦

©Bon Ishikawa
2016年 | 日本 | DCP | ドキュメンタリー | 108分
himalaya-laprak.com

文部科学省選定作品

大地震を乗り越えて、強く生きる。
家族と人々の絆を感じるあたたかな日常。

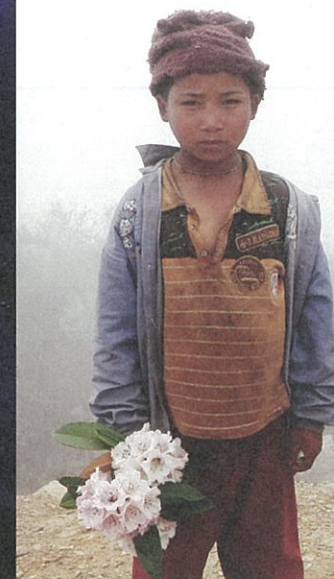
2015年4月、約90000人の犠牲者を出したネパール大地震。写真家・石川梵は震災直後、ジャーナリストとして初めて現地へ入り、ヒマラヤ奥地の震源地・ラプラック村にたどり着いた。壊滅した村で石川はひとりの少年と出会った。澄んだ瞳をした、14歳のアシユバドル。彼の村を想う気持ちに石川もまた思いを寄せ、別れ際、二人はふたつの約束をした。ひとつは、また村に戻ってくる。そしてもうひとつは、この孤立した村の惨状を世界に伝えること――。

貧しくても明るい家族、子どもたちの輝く眼差し、寄り添うように生きる村人たち、そして祈り。

そこには、忘れていた人間本来の生き方があった。



監督は、写真家でありノンフィクション作家の石川梵。これまでに「伊勢神宮、遷宮とその秘儀」「海人」「The Days After 東日本大震災の記憶」など多くの作品を手がけてきた。そして2015年、大地震直後のネパール取材したことをきっかけに本作にて自身初のドキュメンタリー映画を製作した。ナレーションは、東日本大震災からいまなお、復興活動に参加する女優、倍賞千恵子。壮大なヒマラヤを背景に圧倒的な映像美とカメラワークで綴った叙事的物語。



ゴルカ郡ラプラック村

ネパールの首都カトマンズから北西77キロ地点にある。その至近距離に位置するゴルカ郡ラプラック村は、標高2200メートルの傾斜地にあり、その人口は約4,000人。現在は、震災の影響により、地盤が緩み、生活が困難になってしまったため村人の大半はグブシ・パカと呼ばれる、徒歩で1時間半登った標高2700メートルの高地でキャンプ生活を送っている。



©Bon Ishikawa

世界でいちばん美しい村 himalaya-laprak.com

@sekaichi7

fb.com/taiwanbanzai

8月11日(金・祝)より東京都写真美術館ホールにて! 各回定員入替制 月曜休映

8/11(金・祝) - 9/8(金) 13:00 | 15:30
【一般:1,800円 学生:1,500円 シニア:1,100円】

次の方は当日料金が割引になります◎東京都写真美術館で開催の写真展・映画の半券を持参の方(半券1枚につき割引は1回のみ)
◎東京都写真美術館パスポートをご提示の方 ◎三越カード、伊勢丹カード、アトレビュー Suicaカード持参の方

東京都写真美術館ホール TEL:03-3280-0099(代表) www.topmuseum.jp

JR恵比寿駅東口改札より徒歩7分、地下鉄日比谷線恵比寿駅より徒歩10分 恵比寿ガーデンプレイス内

